



二期工事粉碎

ジェット増送阻止

9.16総決起へ！

日刊 動労千葉

79.9.4
No. 215

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電二五八〇九・公衆電話22七二〇七）

労農連帯の真価をかけて、反空三里塚・二期工事阻止へ！

三里塚反対同盟は、森山のペテン的「話し合い」を怒りをもって拒否し、二期工事阻止に空港実力廃港を更に高くかかげて、九・一六現地大集会を突破口に、79年180年への一大闘争を決意し、全国によびかけを發した。動労千葉の全このみなさん！

あらゆる妨害 敵対をふみこえて、組織をにかけて守りぬいた「労農連帯」の正義の旗を、今こそはつきりとかかげて、新生「動労千葉」の真価を發揮して叩いぬく時が来た。動労「本部」をはじめ、並いる労組・単産が次々と右傾化・体制内化への道を歩む中、折から、日本階級闘争解体・圧殺の野望むき出しの森山「国鉄35万人体制」合理化攻撃粉碎の叩いと固く結合して、「反対同盟防犯・二期工事阻止・ジェット闘争勝利」の叩いを大きくつくり上げていこう。9・16総決起をかちとろう！



孫をあやす 小川源次 (木の根)

集會のために必ず先頭に立つ元氣なじいさん——真黒に日焼けした精かんな農民の顔にきれいな白髪、——誰でも知っている「源さん」だ。二期工区内にドツカと腰をおろし「くるならこい」と微動だにしない一七戸の重鎮として、小川三兄弟の最年長・小川源さんは今年で満64才を迎えた。

敷地内一七戸を守り、空港実力廃港へ！

立派に完成した「木の根の大風車」をわが子のように見守りながら、毎朝目と鼻の先の憎くき「管制塔」をにらみつけ、今日も忙しい農作業のあい間に「まだまだ若いもんには負けんぞ」と、九・一六大集會の成功のためにとびまわっている。農民の全てを奪い尽す森山の「二期工事強行攻撃」の最先端の激突地に、源さんは、ばあちゃん、あとこり息子とお嫁さん、それに三人の孫、計七人の生命と家屋、田畑の全てをかけてふんばっている。

苦しかった南拓時代 鉄一丁で育てた

土だー

春さきになつと子供らがよもぎの芽を摘んできてな、これ入れて餅つくってくろっていうわけだ。けつども、餅つくにもモ・千・米・ぬかっただよ。南拓の最初の頃は——子供らの気持考えと何とも辛い想いであつたよな。それこそ本当に、朝星・夕星を懐いて、トンビ鉄一丁でこの畑育ててきただぞ。笑うかもしんぬえけつど、あん頃は人並みに税金払える身分になりてえつて気持ちで一所懸命やった。まだ地名もぬかっただから、俺アここを「拓美」ってつけただよ。小字の地名

やっと生活が……と思った矢先に「空港」が——

ほつで、ようやく人向らしい生活に入ってきたなと思つてきた矢先だつペ。空港問題あきたの。46軒あつた木の根も今は俺ら三軒きしになつちまっただよ。移転してつた人らは、土地少ししかもらえなくて百姓続けらんなくなつた人多いよな。たまに不幸なんかあつと俺も顔出しすつけど「源さん頑張つてくる。俺らは政府にちふうされてへだまされて」土地売つちまったけど、源さんは俺らの分かくめて頑張つてくるや「なんて励まされることあつただよ。そんな時は泣かされちまうな。空港さえ来ぬかつたら、みんなして苦労した畑を、ともに孫子に伝えられたんだから……。だから俺アいくら金積ましても見むきもしぬえ！子供に餅一つ食ふことできぬえで、手さ赤く腫らして創りあげた農地だぞ！この土と気持ちだけは、なんとしても子や孫に伝えてえよ。それが親としての務だつペ……」